

研究課題	デジタルツールを活用した「越境」するドラマ教育の可能性				
氏名	渡辺貴裕	所属	教職大学院 総合教育実践 P	職名	准教授
APRIN e-ラーニングプログラムの受講		<input checked="" type="checkbox"/> ←受講済の場合はチェックをすること			
【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)					
<p>ドラマ教育（演劇的手法）は、一般的には、時間・空間を共有し身体に根ざした想像力を協働で発揮することに強みをもつと考えられている。一方で、視聴覚情報を扱うという点では、近年めざましい技術革新を遂げているデジタルツールとの相性がよく、遠隔通信技術と組み合わせることで、その実施形態や内容の拡張を図ることができると考えられる。そこで本研究では、ドラマ教育（演劇的手法）に関して、各種デジタルツールを活用することで時間・空間を越境するやり方を模索し、アクティビティを開発・試行して、その実践的可能性について検討することを目的としていた。</p> <p>調査として、オンラインでビデオ会議システムを使って実施された、私立小学校での表現あそびの学級活動、実演家がゲストティーチャーを務める公立小学校での道徳の授業、実演家による演劇ワークショップなどの参観を行った。また、イギリスのドラマ教師らによって作成されたオンデマンド型の動画コンテンツの視聴と、そこでの活動の体験を行った。</p> <p>実践的取り組みとして、ビデオ会議システム上での、演劇的手法を活用したアクティビティ、詩のテキストをもとにした音読の活動などの開発・実践を行った。また、オンラインホワイトボードなどのデジタルツールを活用した活動についての開発・実践も行った。さらに、デスク上のPCやタブレットといった通常のとどまらず、三脚に自立させたタブレット端末やミーティングオウル（自動追尾型カメラを備えたマイクスピーカー）といった機材を用いた、より身体性を喚起する環境の構成についても試行し、そこでの活動の可能性を検討した。</p> <p>これらを通して、各種ツールの特性とその活かし方、技術的な制約（例：複数同時発話の難しさ）とその乗り越え方などに関して、一定の知見を得ることができた。それにより、対面で行っていたことをただオンラインに置き換えるのにとどまらない、オンラインならではの活動のあり方や意義を浮き彫りにすることができた。</p> <p>一方、時間・空間を共有しないことによって失われるもの・見過ごされるものがあることもたしかであり、そうした面も含めての「越境」に関するさらなる検討が課題として残っている。</p>					
【研究成果発表方法】					
各種機材やツールを用いた活動を紹介する動画をYouTubeにて公開した。 オンラインでの取り組みの模索過程の一部は、現在執筆中の日本教育方法学会の機関誌『教育方法50』の原稿にも盛り込む予定である。					

※発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入すること。

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。